
四日市市
介護支援専門員調査
報告書

令和8年7月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 有効回答件数及び回答率	1
(4) 留意点	1
2. 調査結果	2
問1 所属などについて	2
問2 ケアマネジメントについて	6
問3 介護サービスについて	10
問4 日常生活の支援について	11
問5 地域や多職種間での連携について	12
問6 認知症対策について	15
問7 医療との連携、在宅での療養・介護について	17
問8 今後の介護について	22

1. 調査概要

(1) 調査目的

本市では、高齢者福祉の一層の充実と介護保険制度の円滑な実施に向け、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の見直しを行うにあたり、介護保険事業者の現状等について把握し、今後の四日市市の介護保険事業及び高齢者福祉施策のための基礎的な資料を作成するために実施しました。

(2) 調査の実施について

対象	市内の居宅介護支援事業所(居介・包括)。小多機、看多機事業所(ケアマネごと)
実施期間	令和7年12月22日(月)～令和8年5月14日(木)
実施方法	WEB調査

(3) 有効回答件数及び回答率

対象数	有効回答数	有効回答率
300 件	115 件	38.3%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合がある。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer =いくつでも)、3LA (3 Limited Answer=3つまで)と記載している。また、不明(無回答)はグラフ・表から除いている。
4. クロス集計表において、各項目(表側)における上位1位、上位2位に色付けをしている。

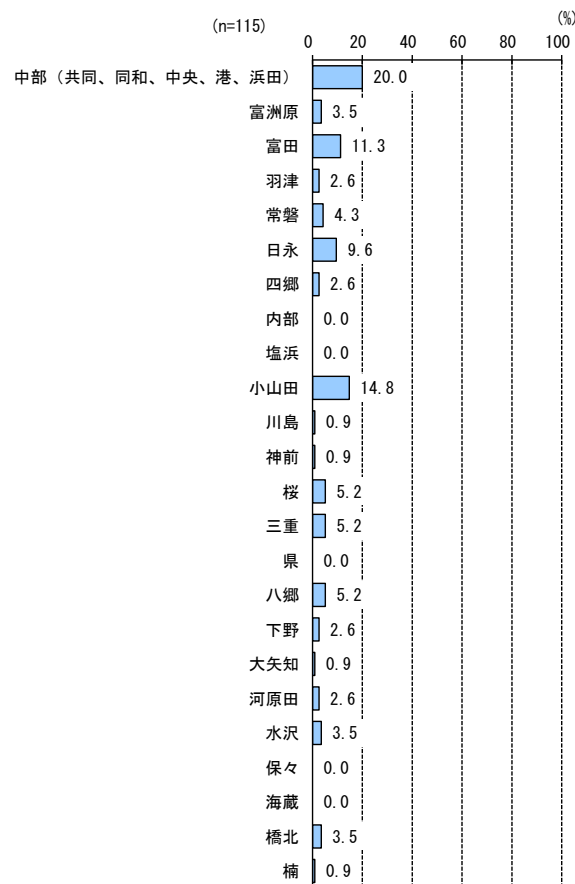
2. 調査結果

問1 所属などについて

●問1 (2) あなたが所属している事業所の所在地はどちらですか。(ひとつだけ○)

○ 事業所の所在地について、「中部（共同、同和、中央、港、浜田）」が 20.0%で最も多く、次いで「小山田」が 14.8%、「富田」が 11.3%となっています。

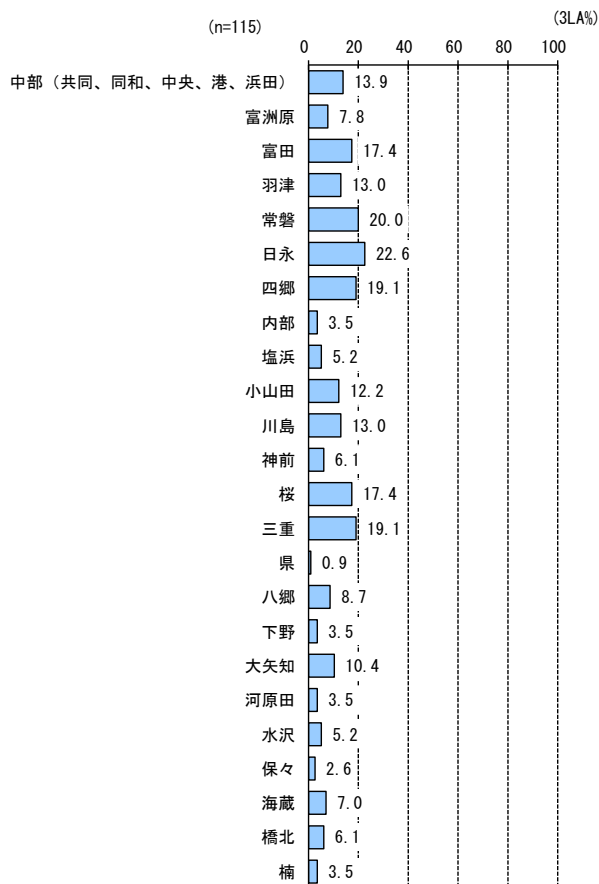
【事業所の所在地】



- 問1 (3) あなたは、主にどの地区の利用者のケアプランを作成していますか。(3つまで○)

○ 担当利用者の主な居住地区について、「日永」が 22.6%で最も多く、次いで「常磐」が 20.0%、「四郷」「三重」が 19.1%となっています。

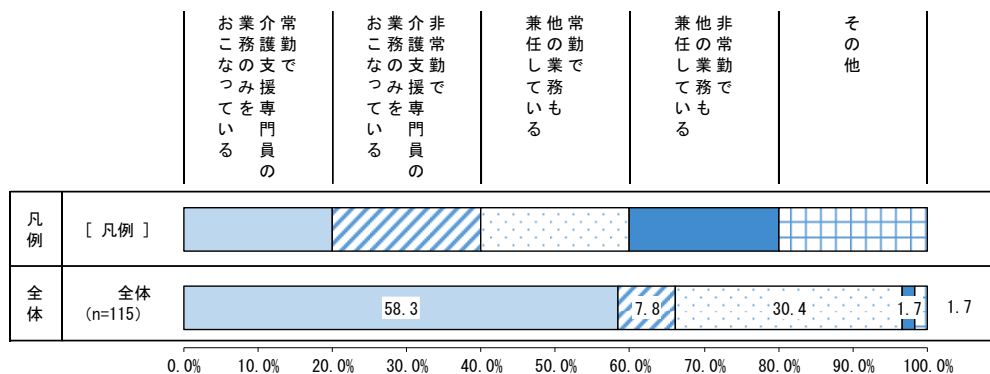
【担当利用者の主な居住地区(3LA)】



- 問1（4） あなたが介護支援専門員として働く勤務形態は、次のどれですか。（ひとつだけ○）

- 勤務形態について、「常勤で介護支援専門員の業務のみをおこなっている」が58.3%で最も多く、次いで「常勤で他の業務も兼任している」が30.4%、「非常勤で介護支援専門員の業務のみをおこなっている」が7.8%となっています。

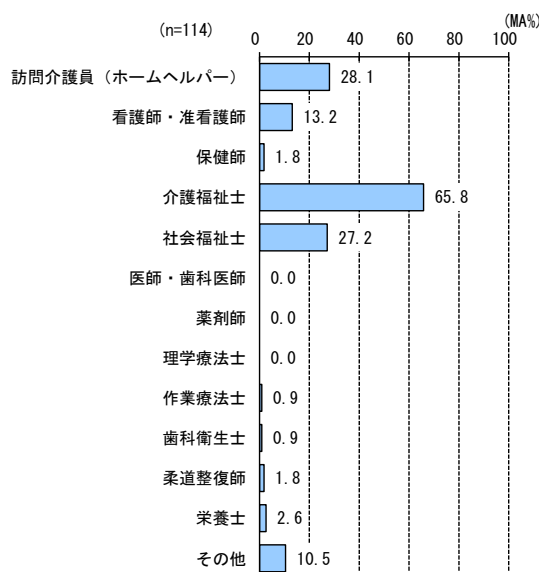
【勤務形態】



- 問1（5） あなたは、次の資格の中でどれをお持ちですか。（いくつでも○）

- 保有資格について、「介護福祉士」が65.8%で最も多く、次いで「訪問介護員（ホームヘルパー）」が28.1%、「社会福祉士」が27.2%となっています。

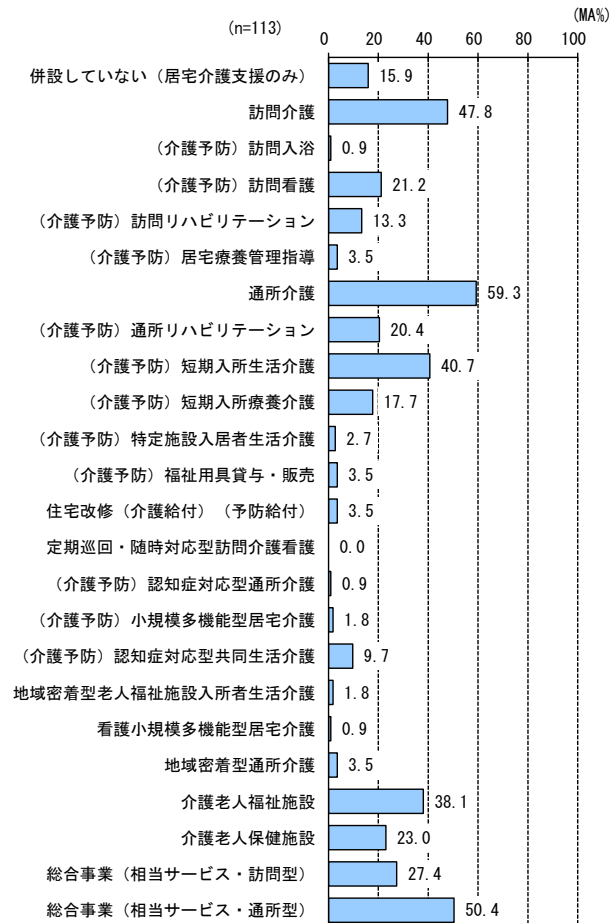
【保有資格(MA)】



●問1（6） あなたが所属している事業所に併設しているサービスは何ですか。（いくつでも○）

○ 事業所の併設サービスについて、「通所介護」が59.3%で最も多く、次いで「総合事業（相当サービス・通所型）」が50.4%、「訪問介護」が47.8%となっています。

【事業所の併設サービス(MA)】

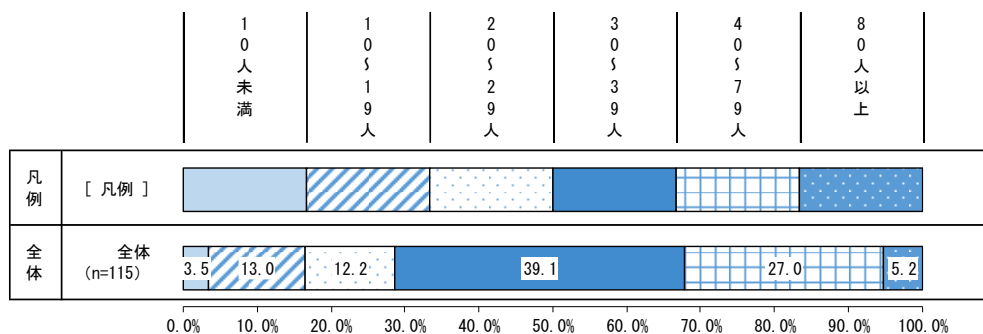


問2 ケアマネジメントについて

●問2（1） あなたが、現在担当している利用者は何人ですか。（ひとつだけ○）

- 担当利用者数について、「30～39 人」が 39.1%で最も多く、次いで「40～79 人」が 27.0%、「10～19 人」が 13.0%となっています。

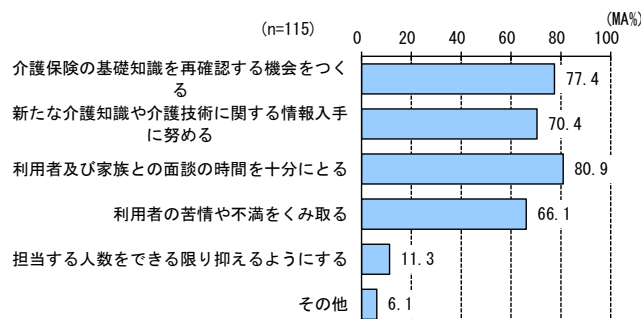
【担当利用者数】



●問2（2） あなたがケアマネジメントの質を高めるためにおこなっていることはどのようなことですか。（いくつでも○）

- ケアマネジメントの質向上のための取り組みについて、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」が 80.9%で最も多く、次いで「介護保険の基礎知識を再確認する機会をつくる」が 77.4%、「新たな介護知識や介護技術に関する情報入手に努める」が 70.4%となっています。

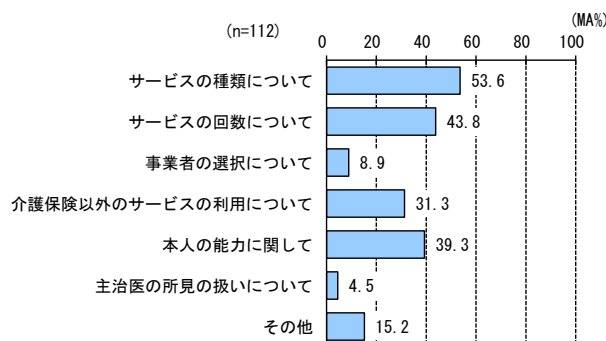
【ケアマネジメントの質向上のための取り組み(MA)】



- 問2（3） ケアプランを作成する際、介護支援専門員であるあなたの意見と、利用者との意見が食い違うのは、どのような場合ですか。（いくつでも○）

○ 利用者との意見の食い違いが発生するケースについて、「サービスの種類について」が53.6%で最も多く、次いで「サービスの回数について」が43.8%、「本人の能力に関して」が39.3%となっています。

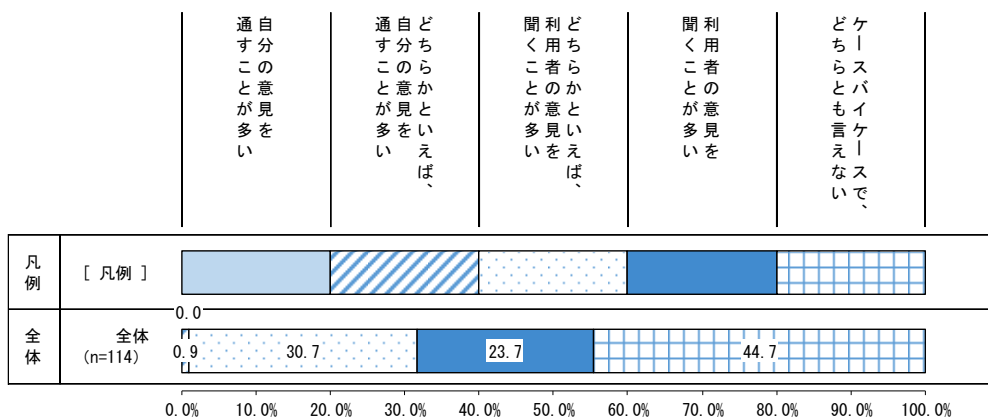
【利用者との意見の食い違いが発生するケース (MA)】



- 問2（4） あなたと利用者との意見が食い違う場合、どのように対処していますか。（ひとつだけ○）

○ 利用者との意見の食い違いへの対処法について、「ケースバイケースで、どちらとも言えない」が44.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば、利用者の意見を聞くことが多い」が30.7%、「利用者の意見を聞くことが多い」が23.7%となっています。

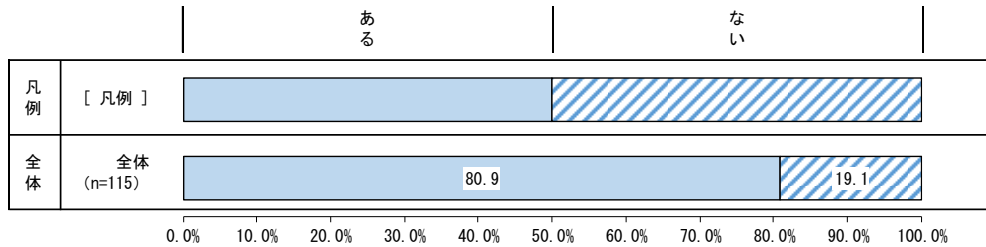
【利用者との意見の食い違いへの対処法】



- 問2（5） ケアプランを作成する際、利用者ご本人とご家族との間で意見が食い違うことはありますか。（ひとつだけ○）

○ 本人と家族の間での意見の食い違いの有無について、「ある」が80.9%、「ない」が19.1%となっています。

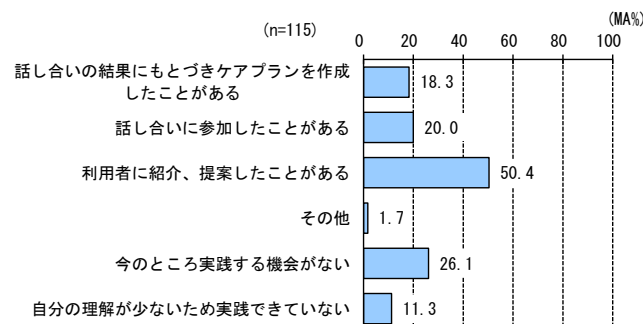
【本人と家族の間での意見の食い違いの有無】



- 問2（6） あなたは、自らが望む人生の最終段階における医療・ケア（「人生会議」、
「ACP：アドバンス・ケア・プランニング」）の考え方にもとづくケアマネジメントを実践していますか。（いくつでも○）

○ 「人生会議（ACP）」に基づく実践状況について、「利用者に紹介、提案したことがある」が50.4%で最も多く、次いで「今のところ実践する機会がない」が26.1%、「話し合いに参加したことがある」が20.0%となっています。

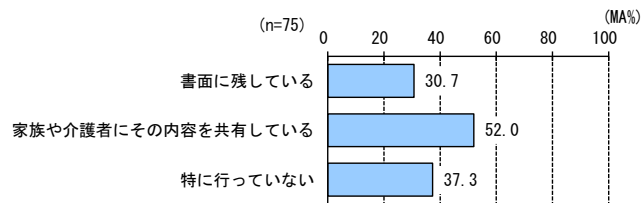
【「人生会議（ACP）」に基づく実践状況(MA)】



- 問2（6）－① 「人生会議」または「アドバンス・ケア・プランニング」での内容について以下のことを行っていますか。（いくつでも○）

○ 「人生会議（ACP）」の実践内容について、「家族や介護者にその内容を共有している」が52.0%で最も多く、次いで「特に行っていない」が37.3%、「書面に残している」が30.7%となっています。

【「人生会議（ACP）」の実践内容(MA)】



問3 介護サービスについて

- 現行サービス（1～42）についての評価はいかがですか。それぞれのサービスについて、当てはまるものをすべて選択してください。

- ほとんどのサービスで「サービスの量が不足」との回答が8割を超えています。
 ○ 「サービスの量が過剰」は（介護予防）訪問看護が 65.0%、（介護予防）福祉用具貸与・販売が 56.4%と他の区分に比べて多くなっています。
 ○ 「サービスの質が悪い」は（介護予防）短期入所生活介護が 23.6%と他の区分に比べて多くなっています。

【現行サービスの評価 (MA)】

単位：%

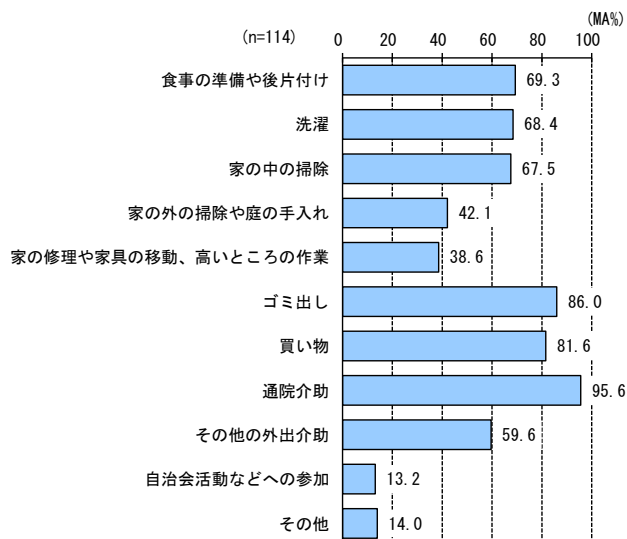
		母数 (n)	現行サービスの評価			
			量が サ ー ビ ス の 不 足	量が サ ー ビ ス の 過 剰	質が サ ー ビ ス の 悪い	不 利 用 者 が 多 い
サ ー ビ ス 種 別	居宅介護支援	78	80.8	16.7	9.0	6.4
	訪問介護	90	88.9	3.3	10.0	8.9
	（介護予防）訪問入浴	55	94.5	-	7.3	9.1
	（介護予防）訪問看護	60	30.0	65.0	10.0	5.0
	（介護予防）訪問リハビリテーション	53	86.8	5.7	5.7	1.9
	（介護予防）居宅療養管理指導	48	54.2	25.0	12.5	10.4
	通所介護	55	67.3	18.2	10.9	9.1
	（介護予防）通所リハビリテーション	64	87.5	3.1	4.7	7.8
	（介護予防）短期入所生活介護	55	72.7	1.8	23.6	5.5
	（介護予防）短期入所療養介護	45	91.1	-	6.7	4.4
	（介護予防）特定施設入居者生活介護	44	93.2	2.3	6.8	-
	（介護予防）福祉用具貸与・販売	39	35.9	56.4	5.1	5.1
	住宅改修（介護給付）（予防給付）	31	58.1	25.8	12.9	3.2
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	59	98.3	1.7	-	-
	夜間対応型訪問介護	58	100.0	-	-	-
	（介護予防）認知症対応型通所介護	56	96.4	-	1.8	1.8
	（介護予防）小規模多機能型居宅介護	50	92.0	2.0	6.0	-
	（介護予防）認知症対応型共同生活介護	48	93.8	2.1	4.2	-
	地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	33	81.8	6.1	12.1	-
	看護小規模多機能型居宅介護	50	94.0	2.0	2.0	2.0
	地域密着型通所介護	40	95.0	5.0	-	-
	介護老人福祉施設	43	90.7	2.3	11.6	-
	介護老人保健施設	43	86.0	2.3	14.0	2.3
	介護医療院	44	97.7	2.3	-	-
	総合事業（相当サービス・訪問型）	58	98.3	1.7	3.4	1.7
	総合事業（相当サービス・通所型）	49	77.6	14.3	4.1	8.2

問4 日常生活の支援について

- 問4 (1) 介護や支援が必要な人の日常生活を支援するためのサービスとして、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

○ 日常生活支援に必要なサービスについて、「通院介助」が95.6%で最も多く、次いで「ゴミ出し」が86.0%、「買い物」が81.6%となっています。

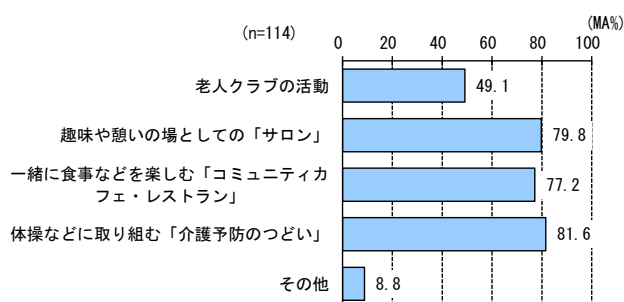
【日常生活支援に必要なサービス(MA)】



- 問4 (2) ふだんの日中、高齢者が集まる場として、どのようなものが必要だと思いますか。(いくつでも○)

○ 日中の高齢者の集いの場へのニーズについて、「体操などに取り組む「介護予防のつどい」」が81.6%で最も多く、次いで「趣味や憩いの場としての「サロン」」が79.8%、「一緒に食事などを楽しむ「コミュニティカフェ・レストラン」」が77.2%となっています。

【日中の高齢者の集いの場へのニーズ(MA)】

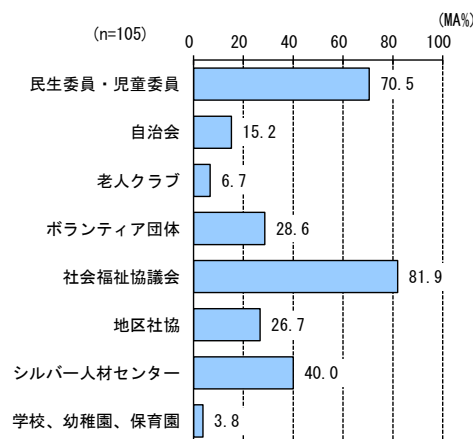


問5 地域や多職種間での連携について

- 問5（1） 四日市市内の各種団体とは連携を図ることができていますか。連携できている団体を選んでください。（いくつでも○）

○ 各種団体との連携状況について、「社会福祉協議会」が81.9%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員」が70.5%、「シルバー人材センター」が40.0%となっています。

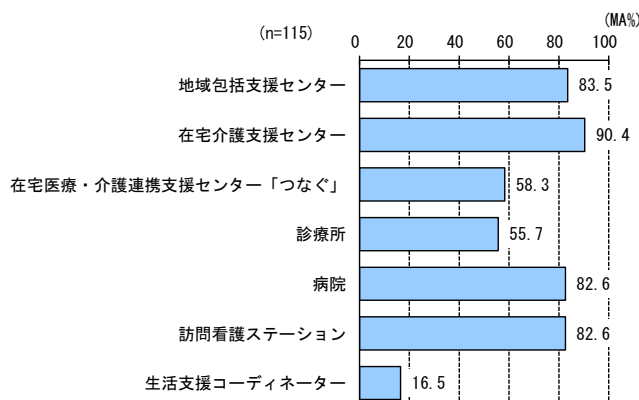
【各種団体との連携状況(MA)】



- 問5（2） 次のような機関等と連携を図ることができていますか。連携できている機関等を選んでください。（いくつでも○）

○ 関係機関との連携状況について、「在宅介護支援センター」が90.4%で最も多く、次いで「地域包括支援センター」が83.5%、「病院」「訪問看護ステーション」が82.6%となっています。

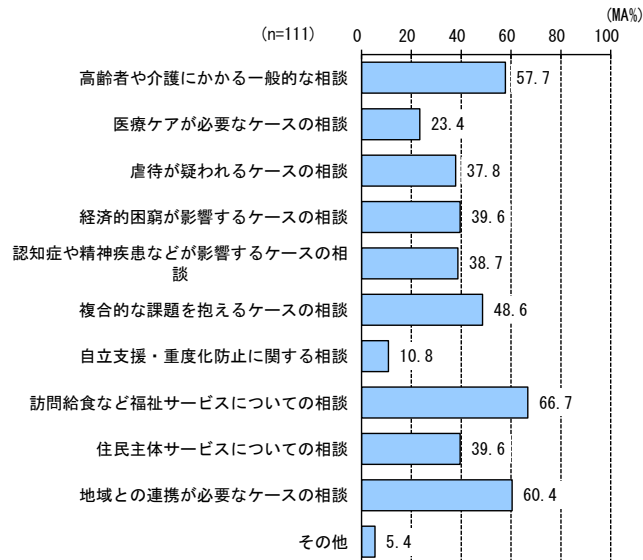
【関係機関との連携状況(MA)】



- 問5（3） あなたは、在宅介護支援センターに対し、どのような内容の相談をしていますか。（いくつでも○）

○ 在宅介護支援センターへの相談内容について、「訪問給食など福祉サービスについての相談」が 66.7%で最も多く、次いで「地域との連携が必要なケースの相談」が 60.4%、「高齢者や介護にかかる一般的な相談」が 57.7%となっています。

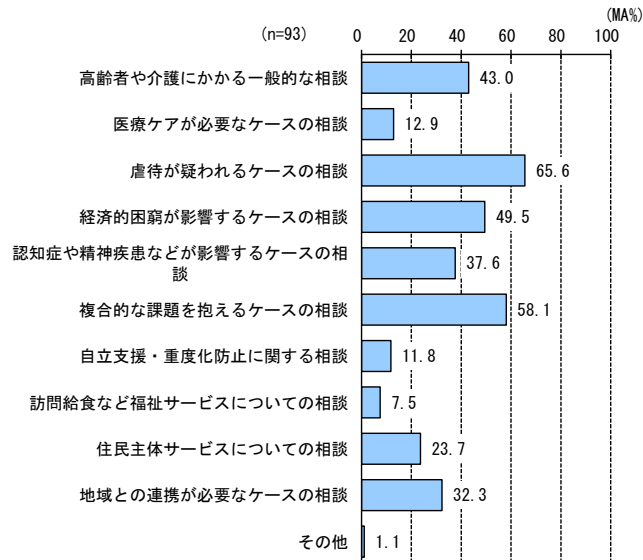
【在宅介護支援センターへの相談内容(MA)】



- 問5（5） あなたは、地域包括支援センターに対し、どのような内容の相談をしていますか。（いくつでも○）

○ 地域包括支援センターへの相談内容について、「虐待が疑われるケースの相談」が65.6%で最も多く、次いで「複合的な課題を抱えるケースの相談」が58.1%、「経済的困窮が影響するケースの相談」が49.5%となっています。

【地域包括支援センターへの相談内容(MA)】

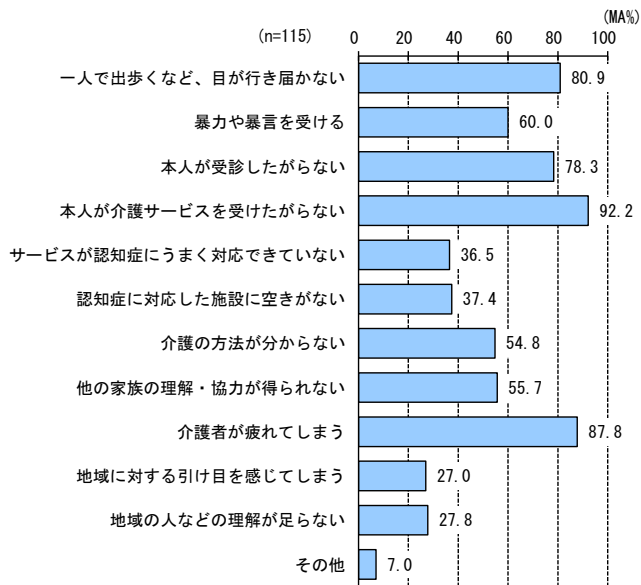


問 6 認知症対策について

●問 6 (1) 認知症に対して、介護者はどのようなことに困っていると思いますか。(いくつかでも○)

○ 認知症介護における困りごとについて、「本人が介護サービスを受けたがらない」が92.2%で最も多く、次いで「介護者が疲れてしまう」が87.8%、「一人で出歩くなど、目が行き届かない」が80.9%となっています。

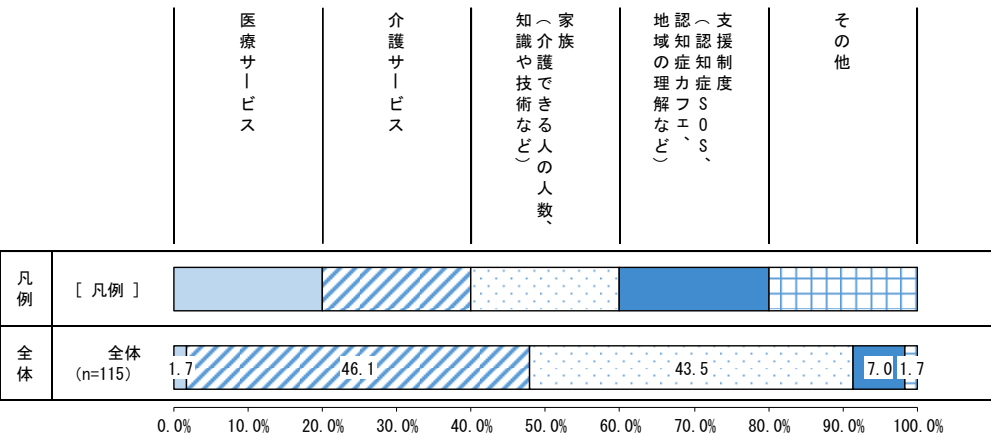
【認知症介護における困りごと(MA)】



●問 6 (2) 認知症の症状を持ちながら在宅介護を続けているケースについて、それを可能にしている最も大きな要因は何だと思いますか。(ひとつだけ○)

○ 認知症の方の在宅継続を可能にする要因について、それを可能にしている最も大きな要因は何だと思いますか。について、「介護サービス」が46.1%で最も多く、次いで「家族（介護できる人の人数、知識や技術など）」が43.5%、「支援制度（認知症 SOS、認知症カフェ、地域の理解など）」が7.0%となっています。

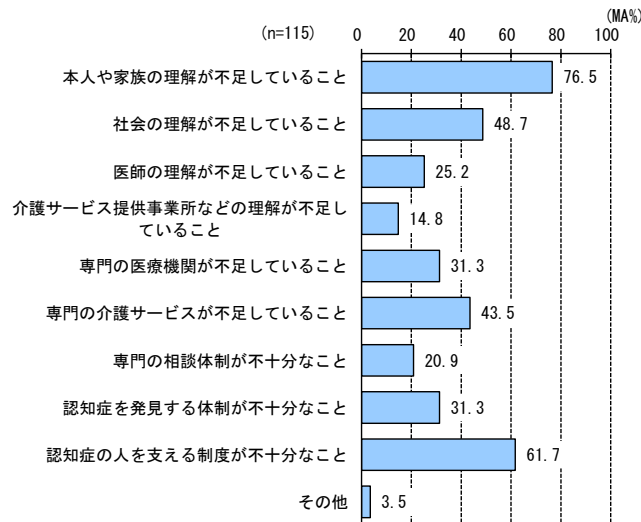
【認知症の方の在宅継続を可能にする要因】



- 問6（3） 認知症対策を充実させていく上での課題は何だと思いますか。（いくつでも○）

- 認知症対策の課題について、「本人や家族の理解が不足していること」が76.5%で最も多く、次いで「認知症の人を支える制度が不十分なこと」が61.7%、「社会の理解が不足していること」が48.7%となっています。

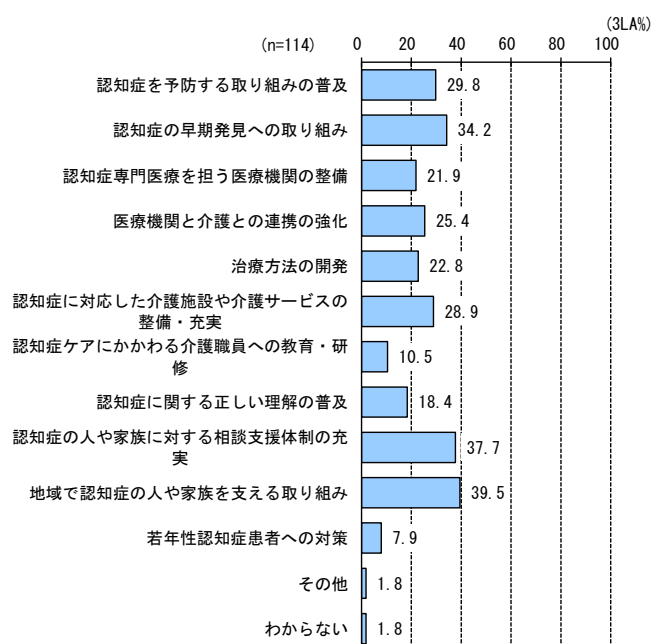
【認知症対策の課題(MA)】



- 問6（4） 社会において、特に重点を置くべき認知症対策は何だと思いますか。（3つまで○）

- 重点を置くべき認知症対策について、「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」が39.5%で最も多く、次いで「認知症の人や家族に対する相談支援体制の充実」が37.7%、「認知症の早期発見への取り組み」が34.2%となっています。

【重点を置くべき認知症対策(3LA)】

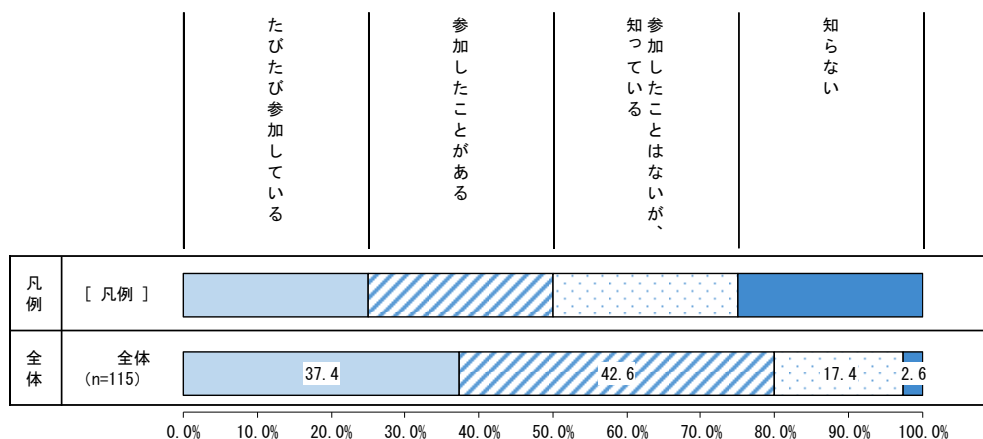


問7 医療との連携、在宅での療養・介護について

- 問7（1） あなたは、「医療・介護ネットワーク会議」の活動をご存じですか。（ひとつだけ○）

○ 「医療・介護ネットワーク会議」の認知度について、「参加したことがある」が42.6%で最も多く、次いで「たびたび参加している」が37.4%、「参加したことはないが、知っている」が17.4%となっています。

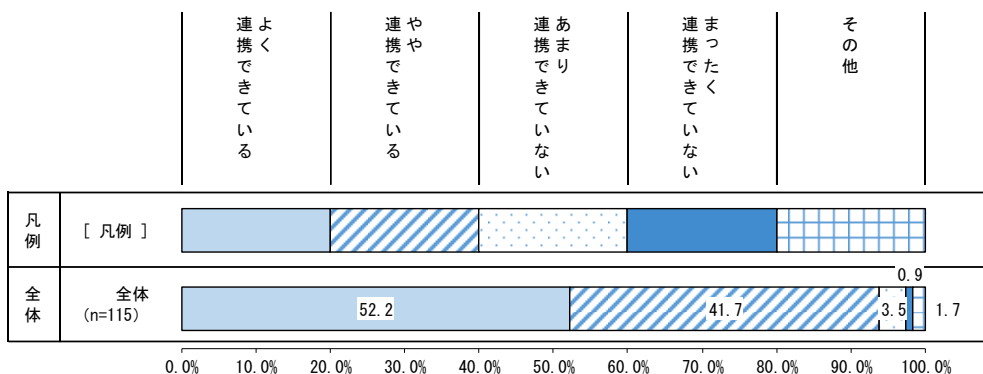
【「医療・介護ネットワーク会議」の認知度】



- 問7（2） 訪問看護ステーションとの連携はできていると思いますか。（ひとつだけ○）

○ 訪問看護ステーションとの連携状況について、「よく連携できている」が52.2%で最も多く、次いで「やや連携できている」が41.7%、「あまり連携できていない」が3.5%となっています。

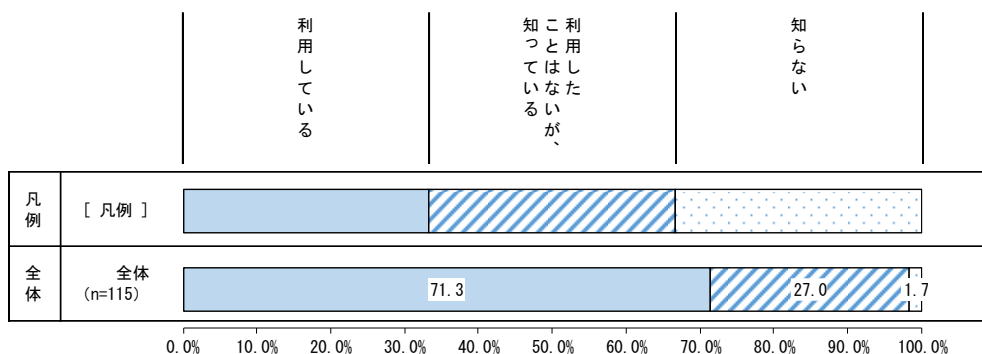
【訪問看護ステーションとの連携状況】



- 問7（4） あなたは、「在宅療養連携マニュアル2025（愛称：つむぐ）」のことをご存じですか。（ひとつだけ○）

○ 「在宅療養連携マニュアル（つむぐ）」の認知度について、「利用している」が 71.3%で最も多く、次いで「利用したことはないが、知っている」が 27.0%、「知らない」が 1.7%となっています。

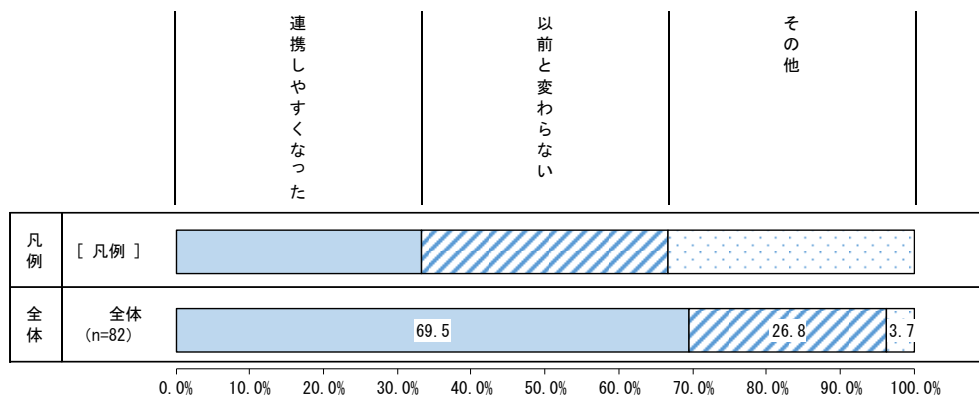
【「在宅療養連携マニュアル（つむぐ）」の認知度】



- 問7（4）－① あなたは、「在宅療養連携マニュアル2025（愛称：つむぐ）」により、医療職との連携がしやすくなったと思いますか。（ひとつだけ○）

○ 「つむぐ」による医療連携のしやすさについて、「連携しやすくなった」が 69.5%で最も多く、次いで「以前と変わらない」が 26.8%、「その他」が 3.7%となっています。

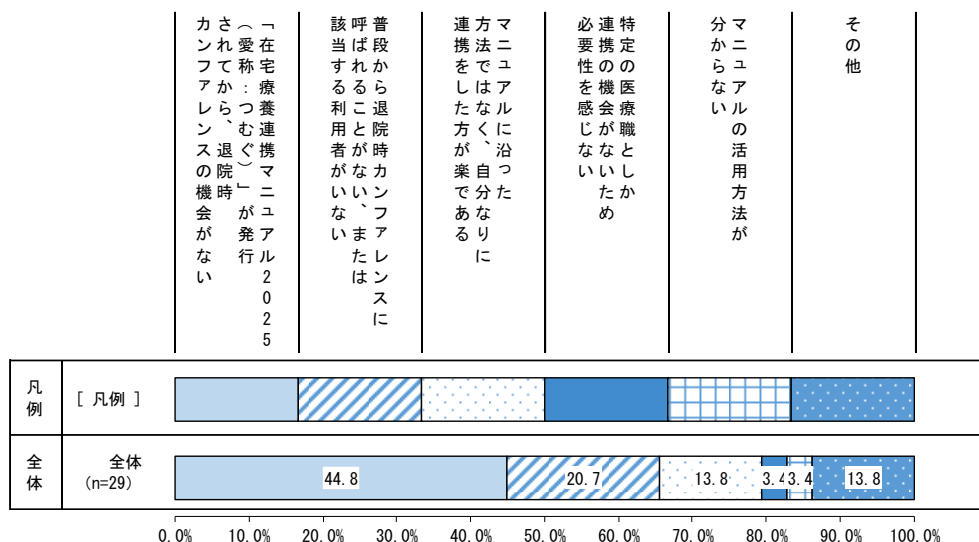
【「つむぐ」による医療連携のしやすさ】



●問7（4）－② 利用したことがない理由は何ですか。（ひとつだけ○）

- 「つむぐ」を利用しない理由について、「在宅療養連携マニュアル2025（愛称：つむぐ）」が発行されてから、退院時カンファレンスの機会がない」が44.8%で最も多く、次いで「普段から退院時カンファレンスに呼ばれることがない、または該当する利用者がいない」が20.7%、「マニュアルに沿った方法ではなく、自分なりに連携をした方が楽である」が13.8%となっています。

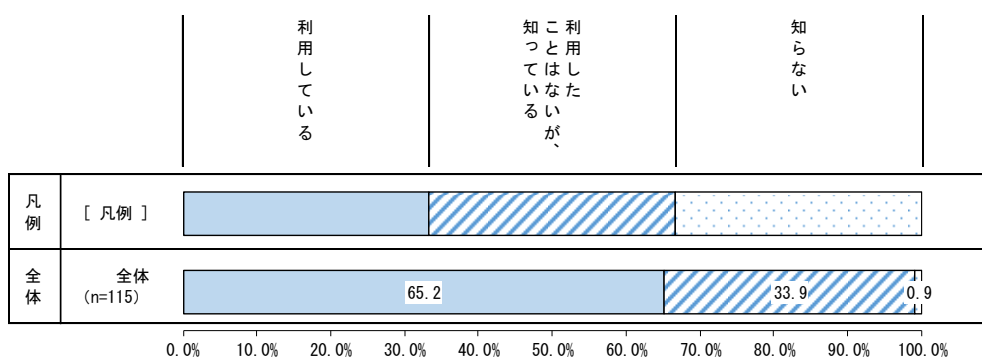
【「つむぐ」を利用しない理由】



●問7（5） あなたは、「医療と介護の連携シート」のことをご存じですか。（ひとつだけ○）

- 「医療と介護の連携シート」の認知度について、「利用している」が65.2%で最も多く、次いで「利用したことはないが、知っている」が33.9%、「知らない」が0.9%となっています。

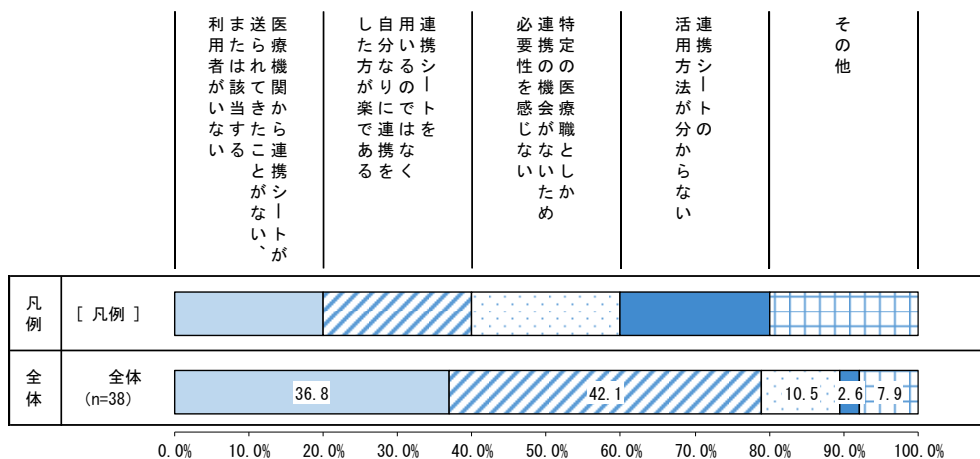
【「医療と介護の連携シート」の認知度】



●問7（5）－① 利用したことがない理由は何ですか。（ひとつだけ○）

- 「医療と介護の連携シート」を利用しない理由について、「連携シートを用いるのではなく自分なりに連携をした方が楽である」が 42.1%で最も多く、次いで「医療機関から連携シートが送られてきたことがない、または該当する利用者がいない」が 36.8%、「特定の医療職としか連携の機会がないため必要性を感じない」が 10.5%となっています。

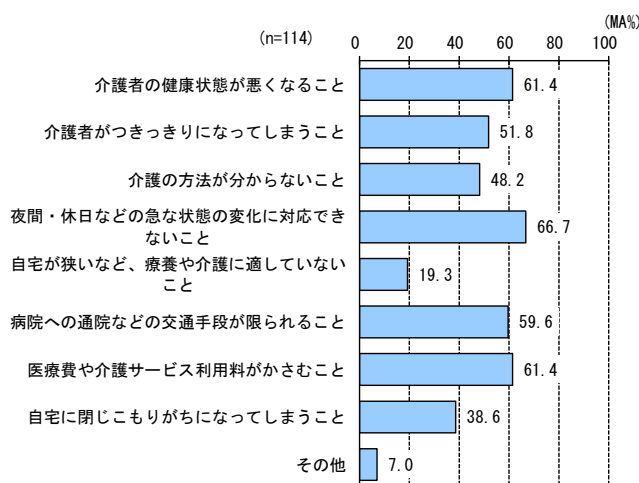
【「医療と介護の連携シート」を利用しない理由】



●問7（6） 在宅での療養・介護を希望される方は、どのようなことに困っていると思いますか。（いくつでも○）

- 在宅療養・介護における困りごとについて、「夜間・休日などの急な状態の変化に対応できないこと」が 66.7%で最も多く、次いで「介護者の健康状態が悪くなること」「医療費や介護サービス利用料がかさむこと」が 61.4%、「病院への通院などの交通手段が限られること」が 59.6%となっています。

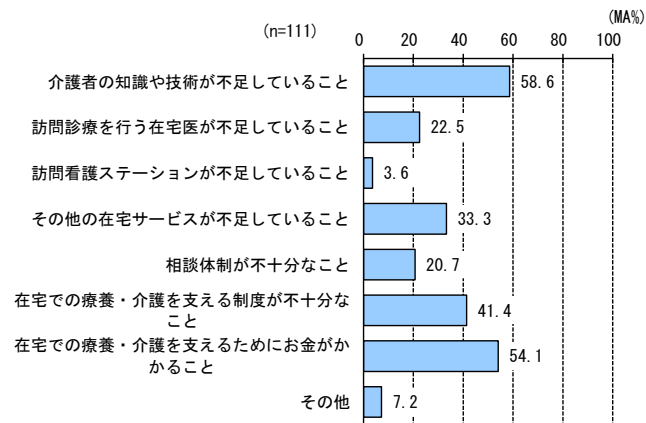
【在宅療養・介護における困りごと (MA)】



- 問 7 (7) 在宅での療養・介護を支援していく上での課題は何だと思いますか。(いくつかでも○)

○ 在宅療養・介護支援の課題について、「介護者の知識や技術が不足していること」が 58.6%で最も多く、次いで「在宅での療養・介護を支えるためにお金がかかること」が 54.1%、「在宅での療養・介護を支える制度が不十分なこと」が 41.4%となっています。

【在宅療養・介護支援の課題(MA)】

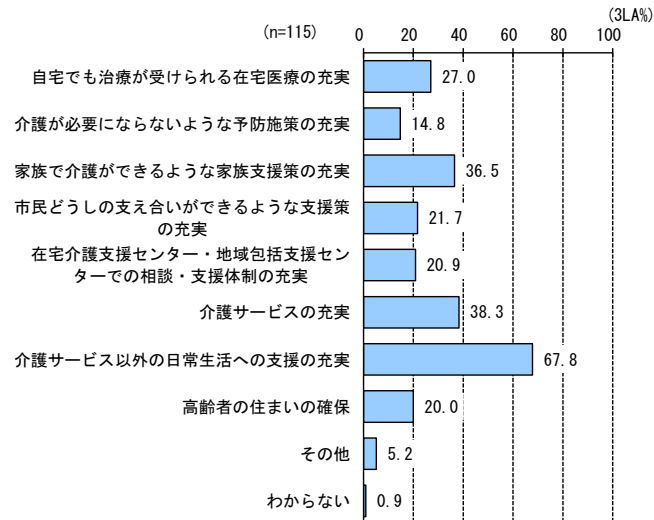


問 8 今後の介護について

- 問 8 (1) 高齢者への介護体制の充実のため、行政に希望することは何ですか。(3つまで○)

○ 介護体制充実のために行政に希望することについて、「介護サービス以外の日常生活への支援の充実」が 67.8%で最も多く、次いで「介護サービスの充実」が 38.3%、「家族で介護ができるような家族支援策の充実」が 36.5%となっています。

【介護体制充実のために行政に希望すること(3LA)】



- 問 8 (2) 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、地域でどのようなことが重要だと思いますか。(3つまで○)

○ 地域で暮らし続けるために重要な要素について、「高齢者の移動手段を、住民ボランティア・NPO などの力を借りて確保する」が 61.7%で最も多く、次いで「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」が 40.9%、「ふれあいいきいきサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が 38.3%となっています。

【地域で暮らし続けるために重要な要素(3LA)】

